

平成26年度第2回 福岡市中央卸売市場開設運営協議会 議事録

1. 開催日時 平成27年2月2日(月) 14:30～15:10
2. 場 所 福岡市中央卸売市場鮮魚市場会館2階 第1会議室
3. 出席者 福岡市中央卸売市場開設運営協議会委員 11名(別紙委員名簿参照)
欠席：甲斐委員，波積委員，小寺委員，川端委員
市側：農林水産局長 外22名
4. 傍聴人 なし
5. 議 題 (1) 所属部会の決定について
6. 報 告 (1) 新青果市場整備事業の進捗状況について
7. 会議内容
農林水産局長あいさつ，会長あいさつの後，議事に入る。

【議題1 所属部会の決定について】

専門委員1名が新たに就任され，事務局よりこれまでの慣例による所属部会案を説明。会長が事務局案のとおり決定。

【報告事項1 新青果市場整備事業の進捗状況について】

事務局より説明

議 長： ただいま説明がありました報告事項について，ご意見・ご質問等がございましたらよろしくお願いたします。

委 員： 太陽光発電については，報告のとおり九州電力による再生可能エネルギーの新規買取が昨年9月から制限されており，昨年12月22日より条件付きで新規買取手続きをすることになっている。資料7ページの「3 課題と対応」に，契約の可否を判断するとあるが，その提示された条件によっては事業収支等の採算性を今後検討していかなければならないということか。

事 務 局： 今後，契約の可否を判断するためには，様々な数値によるシミュレーションを行う必要がある。平成27年2月4日に九州電力による説明会が開催されることになっており，さらに細かい条件等が示される予定である。

まずは，その結果を踏まえた形でのシミュレーションを年度内に行う。

併せて九州電力への接続契約の申込手続きを進め，その後九州電力から出された条件を勘案して再度シミュレーションを行い，4月までには最終決定したいと考えている。

委員： 契約の可否を判断するひとつの基準としては、「2 事業概要」での公募条件に年間事業収支518万3千円とあるが、これをひとつの判断基準とし、今後接続の申し込みをする際、九電みらいエナジーを含めて事業収支の検討を行い、契約の判断をするという理解でよろしいか。

事務局： 事業収支の判断については、公募条件にもあるように年間事業収支518万3千円というラインが、判断基準となってくると考えている。

委員： 今後、九州電力が提示する条件によってかなり変わってくると思うが、年間事業収支518万3千円が厳しいとなれば、契約の問題と事業化を含めて再検討することになるのか。福岡市のエネルギー政策のなかで他の部署でも（太陽光発電事業を）予定しているところがあると思うが、その判断基準と同様になると考えているのか。

事務局： 最終的な判断は、環境局エネルギー政策課を含め、各関係課と協議するなかで決定していくことになる。数値の基準としては先ほどの事業収支の数値がひとつの目安にはなるが、再生可能エネルギー導入施策としてどうするかというところは環境局と協議したうえで決めていきたいと考えている。

委員： 今後、九州電力がどう判断するかの問題であると思うが、引き続き再生可能エネルギーの必要性が問われているので、ぜひそのことを踏まえ、検討していただきたい。

次に、新青果市場整備事業の進捗状況について、いくつかの項目が報告されているが、中継所の設置や現市場の跡地利用についての報告がないのはなぜか。なにも変化がないということなのか。

事務局： 跡地利用については現在、地元の意見を伺うための検討委員会立上げの準備中である。

今年度中の立上げを目指していると前回報告させてもらったが、跡地の規模も大きく前例もないため、関係局との事前調整等に手間取っており、今年度の立上げが難しい状況である。

報告しないということではなく、そのような状況のため、報告をする内容が難しい段階である。

次回の会議には、ご報告できるよう努めたい。

委員： 報告しづらい状況などであるのであれば、それを報告すべきである。
また、中継所の設置についても様々な検討を行っていると思うが、現在の進

捗状況を報告すべきである。非常に大切な事項であるので、しっかりと報告していただきたいと要望させていただく。

委員： 関連事業者の募集区画の飲食店舗は、どのような店舗が入居するというイメージを持っているのか。

事務局： 関連事業者である飲食店舗の入居スペースは市場会館棟の1階となるため、まずは市場関係者に利用されるような飲食店をイメージしている。広く公募したなかで、応募してきた業者からの具体的なメニューや料金、営業時間などの提案内容を比較・検討して、市場関係者の利便性が向上するような業者の選考を行っていきたいと考えている。

委員： 例えば「食」をテーマに公募するなどといった、大まかなレイアウトのイメージがあるわけではないのか。

事務局： 今回の公募にあたり、イメージは特に提案していない。あくまでも市場関係者の利便性が向上するような飲食店舗を広く募集したい。

委員： 青果市場の中に入居する飲食店舗なので、特徴ある店舗の提案があると面白いと思う。

次に、木質化に係る予算的にはどの程度か、抽出できるのか。

事務局： 図(資料P 6)のとおり、かなりの部分の木質化を図ることとしているが、コストに関しては現時点では把握できていない。

委員： 基本的な設計が既にできているから今更だとは思いますが、可能な限り木材を使用しているという市場のイメージを作っていただきたい。予算の枠もあるだろうがぜひ進めてほしい。

委員： かなりの部分を木質化するというが、図(資料P 6)を見てもそのようなイメージが掴めない。もう少しどうにかならないのか。

事務局： 今回の設計の中では、木質化が可能な部分をデザイン性を含め検討を行い、特に1階はイベント広場として活用できるようになっているので、このフロアリング部分にアクセントとして木材を使用している。また、2階センター広場の壁については開口部以外、天井については全て木質とする。木質化のイメージが伝わるように、全体のバランスを調整しながら、デザインを検討している

ところである。

委員： 木質化の設計は、当初から施設の設計の中に入れていたのか、それとも後から変更したのか。

事務局： 設計協議の中で、木材を出来るだけ使えるように設計者と協議しながら積み上げを行った。

委員： 農林水産局全体で木質化を進めているのだから、最初から木質化の提案を評価項目に入れるなど、そのような観点から設計業者の選定を行わなければ、中途半端になるのではないか。

九州大学がすべてを木質化しているように、農林水産局も発想を変えた方が良い。天井や床をすべて木質化するといった分かりやすい方法ではなく、多目的室などの一部を木質化するというだけでは設計思想が分からない。中途半端にならないようにしっかりやってほしいと要望しておく。

【その他】

事務局より「新青果市場の視察について」案内。

議長： 以上をもちまして、平成26年度第2回福岡市中央卸売市場開設運営協議会を閉会する。